

春の全国交通安全運動

4月6日～15日

家族で守ろう ―― “交通弱者”

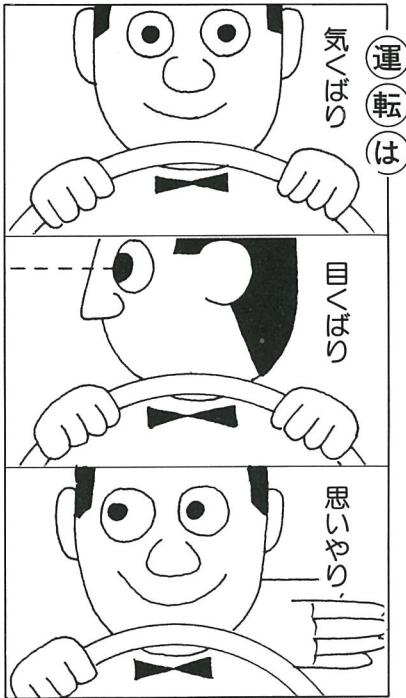
暖かい日差しに誘われて、何となく外出したい気分になってしまおう―春はそんな季節です。狭い日本には人や車があふれています。

昭和五十八年中に発生した交通事故は、全国で五十二万五、九〇三件（一日平均一、四四一件）。前年に比べて二万三、六四二件（四・七％）も増えています。

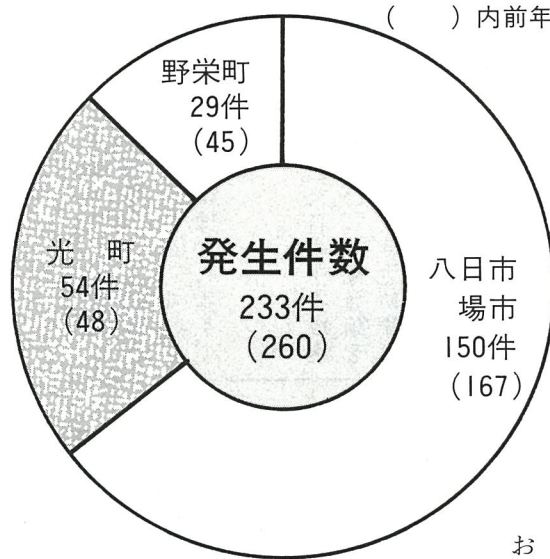
八日市場警察署管内でも二三三件の交通事故が発生しています。

なかでも二輪車の事故、歩行中のお年寄りの事故、自転車乗車中の子供とお年寄りの事故が目立って増えています。

四月六日から十五日までは「春の全国交通安全運動」―。歩行者もドライバーも暖かい陽気に気を緩めることのないよう、みんなで交通安全を確認し合ってください。



昭和58年八日市場警察署管内
人身事故発生状況



人身事故の内訳

区分	死者	負傷者
市町村名		
八日市場市	4人	215人
光町	4	71
野栄町	2	31
八日市場警察署管内	10	317

家族で防ぐ

お年寄りの交通事故

これからは「高齢化社会」の時代だといわれています。昭和五十八年中の交通事故状況を見ても、お年寄りの事故が大幅に増えており、ここにも高齢化の波が押し寄せてきていることがわかります。

特に、六十歳以上の死者数は、全死者数の四分の一以上（二、三九九人）を占めており、子供の死者数（七九〇人・十五歳以下）を大幅に上回っています。お年寄りは子供以上に「交通弱者」の立場にあるといえます。

○お年寄りの行動性を知ろう

お年寄りを交通事故から守るには、ドライバーが運転に気をつける一方、家庭では、家族みんなが温かい思いやりをもって、お年寄りに交通ルールなどを教えるようにしましょう。

○親しみやすい言葉で説明を

お年寄りの交通安全意識を高めるためには、親しみやすい話し言葉で、しかも身近で具体的な例を挙げて説明するのが効果的です。

○夜間の外出には明るい服装を

お年寄りが夜間に外出するときは、明るい色の服装をさせたり、夜光反射材をステッキ、カバンなどに張りつけてください。

また、夜間、自転車に乗るのは危険です。なるべく乗らないように注意することも必要です。

親が教える

自転車のルールとマナー

春は絶好のサイクリング・シーズン。風を切って走る自転車は、実に気持ちいいものです。しかし、その快適さには、常に交通事故の危険がついてまわること忘れてはなりません。

特に春は、新学期を迎えて新しく自転車を買ってもらった子供たちが、まだ慣れない手つきで自転車に乗っている姿をよく見かけます。この機会に、自転車を持つお子さん